

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201036		
法人名	有限会社 友里園		
事業所名(ユニット名)	ねごろの里		
所在地	岩出市森236番地		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町村受理日	平成23年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071201036&amp;SCD=320">http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071201036&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者とスタッフの距離を感じさせないアットホームなグループホーム。  
スタッフはチームワークが良く、利用者さんを思うのと同じように、仲間をも思いやる気持ちをもっている  
笑顔と愛情と季節行事がいっぱいあるところ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設玄関外の一角に、水稻の育生をし、利用者は成長・収穫を日々楽しみにしており、室外に出ることが多くなっている。管理者は職員の意見を聞き入れ、柔軟な態度で受け止めており、職員の信頼も厚い。また、家族・利用者の夫々の違った気持ちや意見を積極的に、それだけで自然に受け止めようとの態度が見て取れる。看取り介護については「皆で知って皆で介護する」を念頭に全職員に周知し介護に取り組んでいる。ホームにおいてかかり付け医は、利用者・家族の代弁者でもあるため密な連携が取られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『入所者さんをもっと知ろう!!』『地域の方にも』の理念を玄関前に掲示しており、各利用者さんのセンター方式も作成し、スタッフ全員が状態把握に努めている。	「入所者さんをもっと知ろう」「地域の方にも」という理念を掲げ、毎月スタッフ全員でミーティングを持ち、統一の情報を共有する等、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミの集積場の掃除は週2回必ず行き、地域の方々も良く知ってくれている。社会とのつながりを重視して散歩等で近隣の方々との会話も出来ている。資源ゴミ等迷惑の掛かる可能性があるものは自己でクリーンセンターに持って行っている。	地域の一員として、ごみ集積所を週2回掃除している。近所の方が声を掛けてくれる等、日常的な地域とのつながりが持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事を通し、夏祭りやクリスマスには近隣の方への招待を行っている。オープンから今年で10年継続中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は最低でも3ヶ月に一度行い、施設の率直な意見を聞かせて頂き、外部の方々に事業所を理解して頂く事で地域とのつながりに努めている。	運営推進会議は3ヶ月に一度開いており、施設の現状を報告し意見や外部の方(区長・家族近所の方・職員・包括・民生委員・市職員)に意見を頂き サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者さんの状態、状況を役場等に報告したり、福祉課の方の訪問もある。必要に応じて利用者さんとお出向くこともある。	市担当者とは、運営推進会議への出席や、来所時に面談を行う等、協力関係が築かれている。また、利用者と役所に出向き利用者の状況を伝えたりする等、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の講習にも参加し、常に利用者さん本位の介護に努めている。但し、玄関に感知センサーを設置し、見守りは行っている。夜は外部からの侵入防止の為施錠。	日中施錠せず玄関にセンサーを付けて見守り出来るようにしている。また、家族にも協力を得られる様に説明している。職員は身体拘束に関する講習にも参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に講習、研修に参加し、ミーティング等にて報告し合い、レポートにて職員の周知徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人の意思を尊重し、ご家族との話し合いにて、事業所としての出来る事への協力は行えていると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族の不安や要望の説明は、納得して頂けるまで何度でも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所行事や来園時には、話し易い雰囲気作りを心掛け、何気ない会話の中からも利用者や家族等の不安や疑問等を聞くように努めている。特に運営推進会議時は、地域の方々の意見が聞けると楽しみにしている。	家族には施設行事や来所時に意見等を聞くようにしている。また、家族や利用者の不安や疑問等、話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見は運営推進会議に報告し、運営に反映出来るよう検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的、行事前には、必ずミーティングを行い、各職員の意見も聞いている。ミーティング時はデイサービスの職員にも出来る限り参加して貰い、違う目線での意見を求めている。	管理者は、職員よりミーティングや日常的な会話等から意見を聞いている。また、日頃より、職員や利用者の声を運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準に活かしてくれている。 助成金も頂けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ストレス解消への食事会などの企画・開催もあり、介護に必要な物品請求にも応じてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会等の参加を通して、相互関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他職種のサマリやご家族等のアセスメントを基に計画表を作成し、本人やご家族にも安心して頂ける関係作りに <b>各職員が懸命に</b> 努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望を聞き、安心感を持って頂ける様、 <b>各職員が懸命に</b> 傾聴と受容の心を忘れず支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	パーソンドケアを中心にその人らしい暮らしをして頂く支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんとの会話の中で回想法などを通し、また野菜作りなどを一緒に行き、収穫の喜びを共に分かち合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者を設けてより深く利用者さんを知る事で、ご家族との関係を深めたいと各職員が <b>懸命に</b> 努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段のコミュニケーションから、好きな事(趣味)の継続に心掛けご家族の協力のもと馴染みの支援につなげています。また、陶芸教室などに出掛けられている方もいます。	趣味の陶芸教室に通ったり、友人が訪ねてくれたり、希望があれば家族や職員が同伴し馴染みの店に外出する等、継続的な支援により関係をつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い出来る事、出来ない事への声の掛け合いや助け合いは、自然な形で出来ている。孤立させない支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者の家族さんとのハガキのやり取りや時には、季節の野菜などを事業所に届けてくれたり、遊びに来られたりとの関係である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『利用者本位のケア』に検討、ミーティングを重ね、利用者さんの身体状況に応じた、介護支援を提供している。	利用者の希望や本意を把握するため、出来るだけ話しやすい雰囲気を作り日常の会話の中から情報を得ている。情報の得にくい利用者には、家族から情報を得るなどして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	環境の変化によるダメージを最小限に生活歴の尊重や、暮らしをコミュニケーションからも情報収集し、支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活スタイルを把握し、有する能力に応じ、自立した日常生活を送る事が出来る支援、センター方式を取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人プレーの介助ではなく、チームケアに努めた自立への可能性を最大限に引き出せる支援計画表を職員全員で検討後に作成し、ご家族にも確認して頂いている。	職員個人の介護でなく職員全員で話し合い、家族には日頃の関わりの中で意見を聞き、介護計画を作成しており、家族の確認を得ている。また、6ヶ月に一回担当者を交代し見直しを行い、意見交換しながらケアを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活シートの記録を通し、スタッフ間の連携に努め、気づきや工夫など申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ねごろの里独自のゆったりとした雰囲気のなかでその人らしさを引き出し医療(Dr)との柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所だけではなく、地域での自分の居場所を確かめる支援に努めたい。現在は陶芸教室にご近所の方が迎えにきてくれる事もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や急変時にはDrとの連携は出来ている。 Dr指示にて適切な医療も受けられている。 ターミナルケアの対応にも努めている。	施設担当医師とは連携がとれており、利用者・家族にとって納得のいく診療が受けられている。また、疾患により家族・本人希望の医療機関で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算もあり、医療(医者・看護師等)との連携は24時間対応可能です。 Drの指示にて専門医の受診もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんの入院時にはスタッフが、定期的に連携して御見舞いに行き、医療従事者との連携に努め、退院時前の受入れ態勢に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Drの指示のもと、御家族とよく話し合い、出来る事・出来ない事などチーム全体で何度も話あっている。ターミナル終了後もDrへの報告は行っている	ターミナルケアについて、家族・医師と話し合いをして施設で出来る事、出来ない事などチーム全体で検討しながら方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や講習に積極的に参加し、ミーティング、申し送りにて周知徹底を行い、心の準備を常にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回訓練を行い手順の確認をして、区長さん、民生委員さん、近隣の方々への報告もしている。	年2回の災害訓練を実施している。また、火災感知器・自動消火装置を居室・共用部分に設置している。非常通報装置に緊急連絡先として職員ホーム5名・デイサービス5名をセットし緊急時に備えている。	夜間を想定した対応として、夜間体制における対応の訓練を昼間や小規模でもよいので、実施される事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳と思いやりのある声掛けに努めている。介護をする人、受ける人の関係ではなく、人としての関係を大切に、声掛けや介助のタイミングを考えて、プライドを傷つけない努力は行っている。	職員の利用者への対応は尊厳と思いやりがあり、静かで落ち着いていて安心感がある。また、プライバシーを損なわない関係が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り出来る事、伸ばせる支援で利用者さんの意欲を引き出し、自己決定を常に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般の支援を通し、心身機能の維持回復を図る。 日々のメリハリのある支援。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容サービスは2ヶ月に1回受けている。年齢に関係なくお洒落を楽しみ、相手のお洒落にも気付ける支援を心掛けている。また、馴染みのある理容・美容院にお連れする事も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を中心にメニュー作りをしている。米とぎや豆剥きなど嫌がらずにして頂ける。最近では、利用者さんが、職員にコーヒーなどを点ててくれたりもする。	食事のメニューは、利用者の嗜好や好みが入り入れられており、牛丼やマグロの刺身等の希望があがっている。また、コーヒー通の利用者が職員や訪問者にコーヒーを点てて出してくれる等、楽しい雰囲気になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢の方もあり、嚥下状態に合わせて、ミキサー食、キザミ食、トロミ使用による対応を行い、1日の水分量を注意している。また、Dr報告も心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じ、自立支援を行っている。食事後の残渣物の確認と清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに応じての介助を心掛け、ポータブルトイレ使用も行いながら、自然排尿の支援を行なっている。	生活シートで個人の排泄パターンを把握し、声かけや介助、ポータブルトイレの利用等、各利用者のパターンに合わせた支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携に努めたり、水分補給や食物繊維の摂取にも工夫し、運動などからも自然に排泄出来る事を心掛けている。又、記録も行っている。最近では予防に青汁を飲まれている方も居る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔保持は勿論、入浴はコミュニケーションの機会の為、重要と考えている。希望時や状況による入浴はいつでも対応し、湯船に入れなくなっても、足浴だけでも入って貰える支援を心掛けたい。	入浴は利用者の状況等により何時でも対応しており、利用者によっては毎日入浴をされる方もいる。また、入浴は利用者との大切なコミュニケーションの場と考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方や持病をお持ちの方への対応を行うなどその人に合った休息を職員間で話し合い、心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基礎体温、バイタルチェックは必ず行い、異常時は速やかにDrに報告。薬の説明書は必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味の把握に努め、家事や散歩など生活を活かした楽しみごとを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さんの機能低下もあり、日々少なくなっているが出来る限り、好きな場所、馴染みある場所への外出を心掛けている。また隣の神社参りや、花壇の観察をかねて、外部との接触に、又地域の方にと交流に努めている。	重度化に伴い、外出の機会は少なくなっているが、一人ひとりの外出希望を把握して支援している。近くの神社にお参りし参拝者と会話したり、花壇の観賞などによく出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん本人から買い物を頼まれた時、お金の支払いは本人の財布より支払って頂いています。対応には職員2人にて行い、出納帳も作成している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間は関係なく電話の取次ぎは行っている。電話をかけるのも自由です。郵便物も本人に届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の日めくりカレンダーを作成し、台所とホールが一体になっており、食事作りの『匂い』等を感じて頂ける。また玄関先には小さい畑での野菜作りをし、成長を共に楽しんでいる。今年はある方からのアドバイスで米作りを試みている。	共用空間では、花活けや小作品が見られ、行事の写真も飾られていて、生活の楽しみが味わえると共に、台所の音や香りが自然で落ち着いた空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置にも気を配り、テレビを見たり、音楽を聴いたりして、数人で楽しめる場所や物静かに過ごせる空間も気を使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを使用して貰い、本人が居心地よく過ごせるような環境を心掛けている。	利用者の好みの家具の持ち込みや、好みの配置を取り入れている。また、家族の写真を飾ったり利用者の過ごしやすいうように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭を意識できる雰囲気作りに努め、主婦(主夫)の力を思い起こせる環境作りを心掛けている。		